

(2-1) 「みんなで取り組む青少年の育成」に関する事業

(1) 地域と共にある学校づくり

- 2-1-1 特色ある学校づくりの充実と教職員の研修の場の提供を推進します・・・37
- 2-1-2 ゲストティーチャーを活用し、地域の歴史・文化・産業等を
テーマにした学習を推進します・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 38
- 2-1-3 積極的な学校公開等による地域に開かれた学校づくりを推進します・・・39
- 2-1-4 見守り隊など地域での子供の安全を守る取組を推進します・・・・・・・・40
- 2-1-5 コミュニティ・スクールの活動の充実を図ります・・・・・・・・・・ 41

(2) 青少年の健全育成

- 2-2-1 青少年健全育成の課題について関係機関相互の協力による調査
研究に努めます・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 42
- 2-2-2 青少年の問題行動の抑止と青少年を有害環境から守る取組を
推進します・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 43
- 2-2-3 青少年に次代を担う者としても自覚・自立を促します・・・・・・・・・・ 44
- 2-2-4 さまざまな体験活動を通し、青少年の豊かな心を育成します・・・・ 45

(3) 学び合う、支え合う地域社会づくり

- 2-3-1 家庭教育事業の充実に向けた連携及び支援体制を整えます・・・・・・ 46
- 2-3-2 家庭の教育力を高めるため、保護者に向けた啓発に努めます・・・・・・ 47
- 2-3-3 放課後子ども教室など、地域での安全で安心な子どもの居場所
づくりの取組を推進します・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 48
- 2-3-4 「“ののいちっ子を育てる” 市民会議」の活動を支援します・・・・・・ 49
- 2-3-5 青少年の健全育成に取り組む地域社会活動を支援します・・・・・・ 50

令和5年度 教育委員会事務の点検・評価表（令和4年度実施事業分）

（担当課） 教育総務課

- 基本目標 2 みんなで取り組む青少年の育成
 基本的施策 1 地域と共にある学校づくり
 具体的施策 2-1-1 特色ある学校づくりの充実と教職員の研修の場の提供を推進します

■当該施策に基づいて実施した主な事業

・特色ある学校づくり支援事業では、各学校が児童生徒や地域の実態を踏まえ、創意工夫した教育活動を展開するための補助金を支給した。
 ・市小中学校教育研究会（市教研）に対する補助金を支給し、県教育委員会指導主事の派遣手続きを行うなど、市内小中学校教職員が自主的に学び合う場を提供した。

■施策のまとめ

（1）教育振興基本計画期間における成果と課題

成果	課題
<ul style="list-style-type: none"> ・各学校が、特色ある教育課程を編成し、自主的・自律的な学校運営を推進した。 ・市小中学校教育研究会において、学習指導や生徒指導のスキルを共有し、9年間を見通した小中連携の指導体制づくりが促進された。 ・「いしかわ道徳推進事業」において、市内小中学校1校が県研究指定校としての役割を毎年果たした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各学校のオリジナリティ溢れる創造的な学校づくりを支援するための予算確保に努める。 ・コロナ禍により、大学と連携した様々な事業等の中止や縮小が続き、児童生徒にとって貴重な学びの場が失われた。

（2）成果指標の動向

施策	成果指標名	単位	現状値 (R2)	R4	R5	目標値 (R13)

（3）今後の展望

・継続して、各学校の特色ある学校づくりを支援する。
 ・市小中学校教育研究会の活動に対して、県や市の指導主事による指導・助言機会を適切に設けられるよう努める。
 ・国や県による指定を受けた研究校に対して、適切な指導・助言・支援を行う。

■評価

事業区分（方向性）	次年度の方向性	A 拡大・重点化 B 改善 C 継続 D その他（縮小・廃止など）	理由
C	C		継続して、各学校の特色ある学校づくりを支援し、適切かつ質の高い自主研修の機会を提供していく。

令和5年度 教育委員会事務の点検・評価表（令和4年度実施事業分）

（担当課） 教育総務課

- 基本目標 2 みんなで取り組む青少年の育成
- 基本的施策 1 地域と共にある学校づくり
- 具体的施策 2-1-2 ゲストティーチャーを活用し、地域の歴史・文化・産業等をテーマにした学習を推進します

■当該施策に基づいて実施した主な事業

- ・コロナ禍のため、中学校2年生の「わく・ワーク体験」（職場体験）の中止
- ・「学校の応援団」として、地域のボランティアがゲストティーチャーを努めた。

■施策のまとめ

（1）教育振興基本計画期間における成果と課題

成果	課題
・地域のゲストティーチャーが、音楽の演奏会や家庭科の授業のサポート役を努め、児童生徒は、質の高い音楽に触れたり地域の人材と関わりを持ち、豊かな心を育んだ。	・ゲストティーチャーになる地域人材の確保

（2）成果指標の動向

施策	成果指標名	単位	現状値（R2）	R4	R5	目標値（R13）

（3）今後の展望

- ・令和5年度より「わく・ワーク体験」（職業体験）を再開し、勤労を通して、未来の地域の担い手となる意識を醸成する。
- ・令和5年度に小学校社会科資料集「わたしたちの野々市」を作成し、児童が身近な地域の歴史・文化・産業等について学習することを促進する。

■評価

事業区分（方向性）	次年度の方向性	A 拡大・重点化 B 改善 C 継続 D その他（縮小・廃止など）	理由
C	A		・小学校社会科資料集「わたしたちの野々市」を作成する。

令和5年度 教育委員会事務の点検・評価表（令和4年度実施事業分）

（担当課） 教育総務課

- 基本目標 2 みんなで取り組む青少年の育成
 基本的施策 1 地域と共にある学校づくり
 具体的施策 2-1-3 積極的な学校公開等による地域に開かれた学校づくりを推進します

■当該施策に基づいて実施した主な事業

<ul style="list-style-type: none"> ・学校公開の実施 ・学校評価の実施 ・地域学校共同推進員による広報活動

■施策のまとめ

（1）教育振興基本計画期間における成果と課題

成果	課題
<ul style="list-style-type: none"> ・学校公開の実施により、地域社会との信頼関係の構築、さらには地域と学校との連携強化につながった。 ・公開された学校の様子を見た保護者や、学校運営協議会を通じた地域住民からの意見等を把握することで、学校教育の改善につなげることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者を含めた地域住民が、積極的かつ適切に学校運営に協力・参画できる取組の企図が必要である。 ・校内における優れた教育活動の積極的な公開方法や情報発信の手段をさらに検討する必要がある。

（2）成果指標の動向

施策	成果指標名	単位	現状値 (R2)	R4	R5	目標値 (R13)
2-1-3	各学校の公開回数	回/年	3	3	3	3 (維持)

（3）今後の展望

<ul style="list-style-type: none"> ・学校公開や学校行事、研究発表等において、より多くの方に参加していただくための手段として、可能な限りオンライン等を活用した取組を進める。 ・収集した意見や要望の評価・分析を適切に行い、教育改善に活かすルーティンを整備する。 ・学校ホームページの定期的な更新や、ICTツールを活用した保護者への案内や周知による積極的な情報発信に努めることで、家庭と地域との連携をより深める。
--

■評価

事業区分 (方向性)	次年度の方向性	A 拡大・重点化 B 改善 C 継続 D その他 (縮小・廃止など)	理由
C	C		「地域とともにある学校」の実現に向けて、引き続き学校への指導・助言・支援を継続する。

令和5年度 教育委員会事務の点検・評価表（令和4年度実施事業分）

（担当課） 教育総務課

- 基本目標 2 みんなで取り組む青少年の育成
 基本的施策 1 地域と共にある学校づくり
 具体的施策 2-1-4 見守り隊など、地域での子どもの安全を守る取組を推進します

■当該施策に基づいて実施した主な事業

- ・各小学校児童が見守り隊に対して、感謝の気持ちを伝えるために手紙等を書いて渡した。
- ・県の事業ではあるが、見守り隊へのアンケートを実施し、構成員や今後の課題などについてご意見をいただいた。

■施策のまとめ

（1）教育振興基本計画期間における成果と課題

成果	課題
<ul style="list-style-type: none"> ・普段思っていることを言葉に表すことが難しい子どもたちにとって、感謝の場を設置することで思いを表現することができ、地域住民の交流の場となっている。 ・見守り隊の存在により、子どもたちの安全意識の向上につながっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・見守り隊員の減少や活動範囲については喫緊の課題となっている。 ・日頃から感謝の気持ちを表すために、日常的に挨拶やお礼が言える子ども、保護者を育成していかなければならない。

（2）成果指標の動向

施策	成果指標名	単位	現状値（R2）	R4	R5	目標値（R13）

（3）今後の展望

- ・子どもと地域住民の交流を促進することで、子どもの安全をより確保できるようにする。
- ・見守り隊が必要としている物資、情報の提供、活動に関する研修等の充実を図る。

■評価

事業区分（方向性）	次年度の方向性	A 拡大・重点化 B 改善 C 継続 D その他（縮小・廃止など）	理由
C	B		見守り隊の高齢化や減少を改善する手立てが必要であると考える。

令和5年度 教育委員会事務の点検・評価表（令和4年度実施事業分）

（担当課） 教育総務課・生涯学習課

- 基本目標 2 みんなで取り組む青少年の育成
 基本的施策 1 地域と共にある学校づくり
 具体的施策 2-1-5 コミュニティ・スクールの活動の充実を図ります

■当該施策に基づいて実施した主な事業

- ・市立小中学校に学校運営協議会を設置し、年4回学校運営協議会を開催
- ・生涯学習課内に地域学校協働本部を設置し、各校に地域学校協働活動推進員を1名配置
- ・地域学校協働活動ボランティアの募集及び登録（個人57件・企業61件）
- ・地域と学校の連携・協働体制構築事業費補助金による支援
- ・「コミュニティ・スクールボランティア感謝のつどい」を開催（令和5年3月25日 76名参加）

■施策のまとめ

（1）教育振興基本計画期間における成果と課題

成果	課題
・学校運営協議会制度を立ち上げ、家庭・地域と学校をつなぐ体制が整ったことにより、それぞれが抱える課題や目標を共有し一体となって子どもたちを育む意識を高めることができた。	・地域と学校で目標や課題を共有し、学校のニーズに合わせたボランティアを新規開拓し、コミュニティ・スクールの充実を図ることが必要

（2）成果指標の動向

施策	成果指標名	単位	現状値 (R2)	R4	R5	目標値 (R13)
2-1-5	地域の人々と連携した授業回数	回/年	56	61	65	70
2-1-5	地域協力者の登録数（個人・団体）	人・団体/年	—	118	120	140

（3）今後の展望

- ・学校のニーズが高いボランティア項目の登録者を増やす。
- ・一般企業に対しても、地域住民として、家庭・地域・学校が一体となって子どもたちをはぐくむ「地域と共にある学校づくり」に参加いただけるように努めていく。

■評価

事業区分（方向性）	次年度の方向性	A 拡大・重点化 B 改善 C 継続 D その他（縮小・廃止など）	理由
A	A		子どもたちの健やかな成長には、学校と地域の連携・協働が必要であると考えられることから一般企業に対しても、地域住民として協力をお願いし、地域力の向上を図る。

令和5年度 教育委員会事務の点検・評価表（令和4年度実施事業分）

（担当課） 生涯学習課

- 基本目標 2 みんなで取り組む青少年の育成
 基本的施策 2 青少年の健全育成
 具体的施策 2-2-1 青少年健全育成の課題について関係機関相互の協力により調査・研究に努めます

■当該施策に基づいて実施した主な事業

・青少年問題協議会の開催（令和5年1月31日）
 市少年育成センターなどの青少年に関わる各組織が青少年を取り巻く近年の傾向について、それぞれ説明を行い、情報共有を行った。

■施策のまとめ

（1）教育振興基本計画期間における成果と課題

成果	課題
・青少年に関わる関係者が、現代の青少年が直面する問題や青少年を取り巻く環境について情報を共有し、理解を深めることができた。	・刻一刻と変化する社会において、青少年を取り巻く環境も急速に変わっていくことから、新しい課題に対して、積極的に意見交換、対応策の検討を行っていくことが必要である。

（2）成果指標の動向

施策	成果指標名	単位	現状値（R2）	R4	R5	目標値（R13）

（3）今後の展望

・青少年問題協議会を通して、現代社会における青少年を取り巻く環境に関して意見交換を行い、課題解決のための方向性を探っていく。

■評価

事業区分（方向性）	次年度の方向性	A 拡大・重点化 B 改善 C 継続 D その他（縮小・廃止など）	理由
C	C		青少年に関わる関係機関が一同に会して情報共有を行う場であることから、今後も引き続き継続する。

令和5年度 教育委員会事務の点検・評価表（令和4年度実施事業分）

（担当課） 生涯学習課

- 基本目標 2 みんなで取り組む青少年の育成
 基本的施策 2 青少年の健全育成
 具体的施策 2-2-2 青少年の問題行動の抑止と青少年を有害環境から守る取組を推進します

■当該施策に基づいて実施した主な事業

- ・街頭巡視活動の実施（年間延べ263回、延べ538名が市内商業店や公共施設等を巡視）
- ・インターネット巡視活動の実施（年間244回、T i k T o kやインスタグラム等のSNSやインターネット掲示板等の投稿を確認）

■施策のまとめ

（1）教育振興基本計画期間における成果と課題

成果	課題
<ul style="list-style-type: none"> ・市内商業店や公共施設等の街頭巡視を実施することで、子どもたちが安心・安全に過ごせる地域環境を維持した。 ・SNS等のインターネット巡視を行い、誹謗中傷の投稿等の問題を発見した場合は速やかに関係機関と情報共有し、問題解決を図ることで非行や被害を防止した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も市内の新たな商業店の出店や既存店舗の閉店などの情報収集に努め、地域の商業環境の変化が市内児童生徒にどのような影響を及ぼすかを調査し対応していく必要がある。 ・SNSなど、新たなサービスの使用状況や危険性を確認していく必要がある。

（2）成果指標の動向

施策	成果指標名	単位	現状値 (R2)	R4	R5	目標値 (R13)
2-2-2	街頭巡視活動の参加率	%	88	71	100	90
2-2-2	インターネット巡視活動	回/年	181	244	247	220

（3）今後の展望

- ・今後も継続して市内の商業環境を把握し、健全な商圈を構築していく。
- ・SNSなどインターネット上の新たなサービス等の使用状況、危険性を把握し関係機関と共有できる体制を維持していく。

■評価

事業区分（方向性）	次年度の方向性	A 拡大・重点化 B 改善 C 継続 D その他（縮小・廃止など）	理由
C	C		非行・被害防止のため今後も市内商業環境の把握やインターネット上のサービスの把握が必要のため

令和5年度 教育委員会事務の点検・評価表（令和4年度実施事業分）

（担当課） 生涯学習課

- 基本目標 2 みんなで取り組む青少年の育成
 基本的施策 2 青少年の健全育成
 具体的施策 2-2-3 青少年に次代を担う者としての自覚・自立を促します

■当該施策に基づいて実施した主な事業

<ul style="list-style-type: none"> ・成人式 日時：令和5年1月8日(日)午後2時 開催 内容：アトラクション・式典（R4実績：参加者380人 対象者816人） ・立志式 日時：令和4年11月30日（水）午前11時開催 内容：式典・記念講演（藺森 喜美 氏 金城大学短期大学部 教授）（R4実績：参加者564人）

■施策のまとめ

（1）教育振興基本計画期間における成果と課題

成果	課題
・青少年の新たな門出に際し、地域社会からの温かい祝福を受ける中で、大人として社会に参画していくための心構えについて考える機会を提供できた。	・成人式については、過度な混雑を防止する効率的な開催方法について検討していく必要がある。 ・立志式については、現代の思春期の青少年のニーズに合わせた講演会を実施する。

（2）成果指標の動向

施策	成果指標名	単位	現状値（R2）	R4	R5	目標値（R13）

（3）今後の展望

・次代を担う青少年が意欲を高め、将来自立していくうえで役に立つような講演会の開催等を検討していく。

■評価

事業区分（方向性）	次年度の方向性	A 拡大・重点化 B 改善 C 継続 D その他（縮小・廃止など）	理由
C	C		成人式、立志式には、毎年多くの市民が出席しており、大人としての自覚自立を促す良い機会となっている。

令和5年度 教育委員会事務の点検・評価表（令和4年度実施事業分）

（担当課） 生涯学習課

- 基本目標 2 みんなで取り組む青少年の育成
 基本的施策 2 青少年の健全育成
 具体的施策 2-2-4 さまざまな体験活動を通し、青少年の豊かな心を育成します

■当該施策に基づいて実施した主な事業

- ・公民館事業として子どもたちが自然と触れるイベントを実施
 ののいち自然教室 第1回：9月3日 白山市綿ヶ滝、舟岡山など
 第2回：2月11日 石川県立白山ろく少年自然の家、白山一里野温泉スキー場
- ・ボランティア探検隊「飛鳥」の活動支援
 活動内容：郷公民館花いっぱい運動補助、野々市公民館七イベント子ども縁日運営補助、
 ののいちマナビフェスタ子ども縁日運営など
- ・ボランティア団体「g l o r y」の支援 活動内容：会員募集チラシ配布

■施策のまとめ

（1）教育振興基本計画期間における成果と課題

成果	課題
<ul style="list-style-type: none"> ・自然体験教室やボランティア活動によって、日常生活では体験できないような活動の機会を提供したことで、子どもたちの社会性や協調性の向上に寄与した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然体験教室が子どもたちにとってよりよい体験になるように内容を検討することが必要。 ・ボランティアの活動の知名度を高め、活動の充実を図ることが必要。

（2）成果指標の動向

施策	成果指標名	単位	現状値 (R2)	R4	R5	目標値 (R13)
2-2-4	青少年ボランティア登録者数	人	25	31	35	40

（3）今後の展望

- ・自然体験教室やボランティア活動の取組の趣旨を周知し、興味をもって参加してもらえるような企画実施する。

■評価

事業区分（方向性）	次年度の方向性	A 拡大・重点化 B 改善 C 継続 D その他（縮小・廃止など）	理由
C	C		自然体験教室やボランティア活動などでは、普段の学校生活や家庭ではできない体験ができ、それらの活動は豊かな人間性の涵養に寄与するため、今後も継続して実施したい。

令和5年度 教育委員会事務の点検・評価表（令和4年度実施事業分）

（担当課） 生涯学習課

- 基本目標 2 みんなで取り組む青少年の育成
 基本的施策 3 学び合う、支え合う地域社会づくり
 具体的施策 2-3-1 家庭教育事業の充実に向けた連携及び支援体制を整えます

■当該施策に基づいて実施した主な事業

- ・家庭教育推進協議会の開催（年2回：6月30日、3月20日）
- ・家庭教育サポーターの活動
 - 各園の「なかよしの日」に保護者との相談活動を実施（市内12園 計47回実施）
 - 子育て中の保護者の気軽な相談相手として来館者への声かけなどをする支援活動の実施
（開催日：毎週火曜日 場所：カレード）
 - 子育て中の保護者と子どもが一緒に楽しめるイベント「なかよし子育て大集合！」の実施
（開催日：3月4日 参加者数：161人）

■施策のまとめ

（1）教育振興基本計画期間における成果と課題

成果	課題
<ul style="list-style-type: none"> ・家庭教育推進協議会では、「ののいち元気家族三か条」チラシを配布し、家庭教育の重要性を啓発した結果、広く市民に認知された。 ・家庭教育サポーターの活動をカレードでも実施することで、より気軽に相談できるようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭教育サポーターの人員確保が必要。 ・家庭教育の重要性をさらに周知するため、コミュニティ・スクールの事業とも連携し、地域住民や企業との協働が必要。

（2）成果指標の動向

施策	成果指標名	単位	現状値 (R2)	R4	R5	目標値 (R13)
2-3-1	家庭教育サポーターの人数	人	21	28	29	30

（3）今後の展望

- ・効果的な家庭教育の事業を推進するため、家庭教育の関係者を集めた協議会を定期的を開催し、課題解決を図っていく。
- ・家庭教育サポーターの体験談や活動内容を積極的に発信することで、サポーターの魅力を伝え、人員の確保に努める。

■評価

事業区分（方向性）	次年度の方向性	A 拡大・重点化 B 改善 C 継続 D その他（縮小・廃止など）	理由
C	C		人格形成の基礎である家庭教育の充実をはかることは、青少年の健全育成へつなげるため、各家庭の自主性を尊重しつつ、継続して取り組む必要がある。

令和5年度 教育委員会事務の点検・評価表（令和4年度実施事業分）

（担当課） 生涯学習課・教育総務課

- 基本目標 2 みんなで取り組む青少年の育成
 基本的施策 3 学び合う、支え合う地域社会づくり
 具体的施策 2-3-2 家庭の教育力を高めるため、保護者に向けた啓発に努めます

■当該施策に基づいて実施した主な事業

- ・就学時健診子育て講座（小学校5校 計5講座 参加者数：526人）
- ・思春期子育て講座（中学校2校 計2講座 参加者数：374人）
- ・家庭教育学級を市PTA連合会に委託（各単位PTAにて開催 計8講座 参加者数：460人）
- ・幼児家庭教育講座を各保育園で家庭教育に関連するテーマで年1回開催（7園実施 参加者数：123人）
- ・「ののいち家族ふれあいの日 NOネット・NOゲーム・NOテレビ」の推進

■施策のまとめ

（1）教育振興基本計画期間における成果と課題

成果	課題
・市内保育園や市内小中学校で講座を実施することで、子どもの発達段階に応じた学習機会を提供することができた。	・各種講座をインターネットを活用して行うなど、講座の開催方法の拡充を図ることで、より多くの学習機会を提供することが必要。

（2）成果指標の動向

施策	成果指標名	単位	現状値 (R2)	R4	R5	目標値 (R13)
2-3-2	ノーネット・ノーゲーム・ノーテレビデーの認知率	%	76	96	97	80
2-3-2	公民館等と連携した講座の開催数	回/年	—	0	1	10

（3）今後の展望

- ・家庭の教育力を高めるには、保護者の子育てに対する意識の向上が必要であるため、各種講座を開催し、保護者へ学習機会の提供を継続して行う。
- ・保護者のニーズの把握に努め、需要に即した講座を実施する。

■評価

事業区分（方向性）	次年度の方向性	A 拡大・重点化 B 改善 C 継続 D その他（縮小・廃止など）	理由
A	A		家庭の教育力を高めるためには、保護者への学習機会の提供をさらに充実させることが必要である。

令和5年度 教育委員会事務の点検・評価表（令和4年度実施事業分）

（担当課） 生涯学習課

- 基本目標 2 みんなで取り組む青少年の育成
 基本的施策 3 学び合う、支え合う地域社会づくり
 具体的施策 2-3-4 「”ののいちっ子を育てる”市民会議」の活動を支援します

■当該施策に基づいて実施した主な事業

- ・『愛と和 ののいち5万人あいさつ運動』の実施（全5期）
- ・子どもと大人のまちぐるみ美化清掃の実施（7月3日 53町内会及び野々市明倫高校 参加者数：8,374人）
- ・青少年育成研修会の開催 「眼科医による警告!!スマホが引き起こす様々な障害」について（7月16日 参加者数：145人）
- ・ネットモラル標語ポスターの掲示 「大丈夫？読者の気持ち考えた？」等8種類（町内会掲示板108箇所 公共施設68施設 小中学校7校 合計984枚）
- ・地域学校協働本部としてボランティアの登録（個人57件 企業61件）及び紹介（22件）の実施

■施策のまとめ

（1）教育振興基本計画期間における成果と課題

成果	課題
<ul style="list-style-type: none"> ・青少年育成研修会において、保護者や青少年健全育成関係者が、スマートフォンが引き起こす影響について理解を深めることができた。 ・地域学校協働本部の運営を担い、コミュニティ・スクール事業を推進することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちを取り巻く社会環境が急速に変化していることから、これまでのメディア対策事業を点検し、時代の変化に対応した青少年健全育成活動を推進する必要がある。

（2）成果指標の動向

施策	成果指標名	単位	現状値 (R2)	R4	R5	目標値 (R13)
2-3-4	美化清掃の参加者数	人/年	9,533 (R1)	8,374	8,400	11,000

（3）今後の展望

- ・『愛と和 ののいち5万人あいさつ運動』や子どもと大人のまちぐるみ美化清掃は、地域住民活動として定着していることから、今後も”ののいちっ子を育てる”市民会議の活動を引き続き支援する。
- ・メディア機器の発達によって子どもたちを取り巻く社会環境の変化が著しいことから、引き続き保護者のためのメディアに関する学習会を開催する。

■評価

事業区分（方向性）	次年度の方向性	A 拡大・重点化 B 改善 C 継続 D その他（縮小・廃止など）	理由
C	C		『愛と和 ののいち5万人あいさつ運動』や子どもと大人のまちぐるみ美化清掃は、地域住民活動として定着し、青少年健全育成に寄与していることから継続する。

令和5年度 教育委員会事務の点検・評価表（令和4年度実施事業分）

（担当課） 生涯学習課

- 基本目標 2 みんなで取り組む青少年の育成
 基本的施策 3 学び合う、支え合う地域社会づくり
 具体的施策 2-3-5 青少年の健全育成に取り組む地域社会活動を支援します

■当該施策に基づいて実施した主な事業

・各団体の活動の支援 子ども会育成連絡協議会 PTA連合会 スカウト育成会	ラジオ体操、輪投げ大会など 巡視活動、研修会など 海岸の清掃活動、募金活動など
--	---

■施策のまとめ

（1）教育振興基本計画期間における成果と課題

成果	課題
<ul style="list-style-type: none"> ・青少年の健全育成に取り組む各団体を支援したことで、子どもたちは地域の人たちとのつながりを感じることができた。 ・各団体の活動を通して、地域で子どもたちを育てるといふ機運を醸成した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各団体は、新型コロナウイルス感染症の影響を受けたことにより活動を縮小したため、アフターコロナにおける新たな取組を検討することが必要

（2）成果指標の動向

施策	成果指標名	単位	現状値 (R2)	R4	R5	目標値 (R13)

（3）今後の展望

・子どもたちが地域の人々との関わりの中で健やかに成長していくための取組が継続されるよう、引き続き各団体を支援する。

■評価

事業区分（方向性）	次年度の方向性	A 拡大・重点化 B 改善 C 継続 D その他（縮小・廃止など）	理由
C	C		地域の人々との関わりが子どもたちの健やかな成長に寄与すると考えられることから、引き続き支援する。

(2-2) 学識経験者からの意見

野々市市内の各学校が特色ある教育課程を編成するなど、自主的、自立的な学校運営を推進し、各校において独創的な学校づくりが実施されていること、市小中学校教育研究会において、9年間を見通した小中連携の指導体制づくりが進められていることなどは大いに評価されるべきことと考えます。今後も各校の独自性が発揮された学校づくりや小中連携の指導体制づくりに期待します。

街頭巡視活動の参加率、インターネット巡視活動回数が共に目標値を大きく上回っており、関係者の日頃からの熱心な取組に敬意を表します。こうした活動によって得られた情報が関係機関の間で共有され、今後の更なる対応の充実につながることを期待します。

就学時の健康診断を活用した子育て講座、思春期子育て講座、各学校や保育園での家庭教育講座など、子どもの発達段階に応じた保護者向けの啓発活動の充実が図られていると思います。

家庭・地域・学校を繋ぐ体制が整い、学校運営に取り組むことが可能となったコミュニティ・スクールはボランティアを積極的に生かし、地域と一体となって特色ある学校づくりを進めていくことを期待します。

子どもたちにとって自然体験活動やボランティア活動はたいへん貴重だと考えます。多様な人と関わりながら活動することで愛着や信頼感を育てていくので、今後とも様々な体験活動の場を設けていただき、健やかな成長を支えていただきたいと思います。

(2-3) 今後の方針

- ① 継続して、各学校の特色ある学校づくりを支援するとともに、適切で質の高い自主研修の機会を提供していきます。
- ② 今後も街頭巡視やインターネット巡視活動を実施し、青少年の問題行動の抑止と青少年を有害環境から守る取組を行います。
- ③ コミュニティ・スクールの浸透を図り、また地域の人々の協力を得て、子どもたちの安心安全な活動拠点において、学習活動やスポーツ・文化芸術活動等の取組を実施していきます。
- ④ 普段の学校生活や家庭ではできない体験ができる自然体験教室やボランティア団体の活動を支援し、心豊かな子どもたちの育成に努めます。